

第18期 施設見学会が開催されました

第18期神奈川区民協議会、1回目の施設見学会が平成27年1月22日（木）に開催されました。

今回は、昨今の異常気象とも云われるような状況が見られる中で、区民協議会委員の関心が高かった、「首都圏外郭放水路」を見学場所としました。



当日は朝から小雨が降り続く寒い日でしたが、区役所からの担当者の参加もいただき26人の参加者があり、目的地までバスで向かいました。

「首都圏外郭放水路」は、中川・綾瀬川流域の埼玉県春日部市を中心とする、今後も開発が進められる地域で、中川・倉松川・大落古利根川の洪水の際、その洪水の一部を江戸川へ放流するために、各河川間を地下で結ぶ放水路を建設したものです。

これにより流域の浸水被害を解消または軽減し、より安全で良好な生活環境を創造することを目的に整備され、平成18年6月に完成した施設です。

平成14年から部分的に稼働し、毎年7回程度の洪水を安全に処理することで、住宅地域への氾濫を防いでいるそうです。

そのスケールはまさにギネス級で、洪水を取り込む直径30m、深さ70mにおよぶ5本の巨大立坑をはじめ、地中深く6.3kmにわたって走っているという直径10mの地下トンネル、重量500トンの柱が59本もそびえるマンモス調圧水槽、そして、毎秒200m³（25mプール1杯分）の水を排水する14,000馬力ガスタービンポンプなどの説明を聞くにつれ、そのすべてが想像を超えるスケールのものでした。

参加者の皆さんも実際に116段の階段で地下に下り、マンモス調圧水槽にそびえる大きな柱を目の



当たりにした瞬間は、巨大な地下神殿を彷彿させるその光景に、全員が感嘆の声を上げてしまいました。

この施設が、防災に関心のある人から、非常に人気のある施設だということが、大いに理解できました。

昨年と同様の目的で作られた、「神田川・環状七号線地下調節池」を見学したのですが、首都圏でも毎年のようにおこる集中豪雨やゲリラ豪雨に対して、いかにして「住民を守るか」という視点から、まさにこのよ



うな施設整備が必要なのだと改めて実感した大変有意義な1日でした。

関係者および関係機関の皆さま、ありがとうございました。

